大家族の助け合いで住み続けられるむらづくり

岡山県津山市加茂町　特定非営利活動法人スマイル・ちわ

中国山地の盆地にある城下町、津山から因美線のディーゼルカーに乗り30分ほどの知和駅で列車を降りる。山間の小駅に1日6本の普通列車のみが停車し、ホームに立つと木々を撫でる風の音に包まれる。昭和6年開業の木造駅舎は地元の方に綺麗に手入れされ、アニメ「のんのんびより」に描かれた聖地として近年密かに人気を集めているようだ。

5月中旬、岡山県津山市加茂町の知和地区で活動する、特定非営利活動法人スマイル・ちわ（代表・國米彰（こくまい あきら）さん）が行うイベント「いなか体験田植え編」を訪れた。同会は知和地区の住民有志をはじめ協力者も含めたメンバーにより構成され、お互いが支え合い助け合いながら安心して住み続けられる地域づくりに取り組んでいる。今回は一般に参加者を募り、田植え、稲刈り、餅つきと年3回開催するいなか体験イベントの一環だ。

田んぼに向かうと、獣害対策に囲われたフェンスにどうやって侵入したのか、田畔にアナグマが横たわっている。同会のメンバーが慣れた様子で外に連れ出して田植えイベントが開会する。参加者は約40人。代表の國米さんから挨拶のあと、参加者は横100mほどの田んぼに横一列に並び、長いロープを横に張ってラインをとる「並木植え」で一斉に田植えを行う。

「おーい、引っ張れよー」「まだやっとるでー」ロープを手にする同会の男性メンバーは大きな掛け声をあげながら、阿吽の呼吸で田植えをサポートする。小さな女の子は田んぼに手を浸しながら「母ちゃんーおたまじゃくしが沢山いるでー」。周囲で見守る人からは「ご飯待っとるでー」と声がかかったり笑いが絶えない。母子で参加した岸本さんは「実際に手植えをするとお米の有難みを感じる。知和の皆さんが気さくに声を掛けてくれるので楽しかった」と泥を洗いながら話してくれた。

田植えのあとは、地区の公民館で女性メンバー6名が前日から仕込みをした山菜料理で参加者を迎え、地区住民と参加者が昼ご飯をともにする。前日に収穫した山菜は、人気のネマガリダケをはじめ、イタドリ、ヤマブキ、ヨモギ、フキ、ワラビ

などがずらりと並んだ山菜のバイキングだ。田植えを終えた後の最高のご褒美に一同舌鼓を打ち、賑やかな時間が続いていく。

米蔵を地区住民の手作りで改装した同会事務所をお伺いし、同会代表の國米さんにこれまでのお話を伺った。

知和地区はもともと、地区運動会・ふれあいサロン・納涼祭り・防災訓練などを行う活発な町内会として加茂町内では存在感があったという。ところが平成17年に周辺地域1市3町1村の合併により加茂町から津山市となった。「小さな町内会には行政の目が届かなく、埋没してしまうことへの不安が大きかった」と國米さんは振り返る。

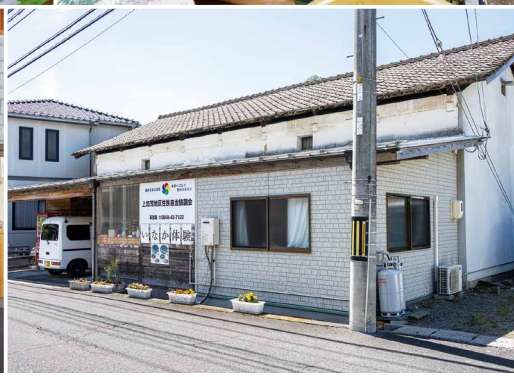
「高齢化が進む知和を今後どうしたらいいか？みんなはどう考えているのか？」との思いから、國米さんは個人で平成23年に「知和の明日を考える会」を企画し、自分でチラシを作って住民に配布する。30名ほどが集まり話をすると、みんな知和に住み続けたい思いがある。自分たちで何かはじめようと声があがった。

でも何から始めようか？　まずは気楽にやりたい。町内会に新たな仕事を頼むのは難しく活動に制約もある。そこで有志で1年近く話し合い平成24年にＮＰＯ法人を設立することになる。知和地区約80軒のうち、設立総会において44名が会員となった。拠点には町内会の倉庫を無償で借りて、津山市からの補助金３２０万円を受けて手作りの事務所を作った。

では、何をしようか？　以前、地区の飲み会の席で高齢者宅の電球が切れた話が出たら、翌日には誰かが直していた。「そうだ。知和の地域が大きな家族だと思えばいつでも助け合える。」

そこで、支え合い助け合いの生活支援事業を立ち上げ、お墓の掃除や草刈り、片付けなどから始めることにした。

支えあいの利用者と協力者をどうやってつなぐのか？　國米さんはスマイル・ちわの全員会議を挙げる。理事会や事務局に参加を限らない。例えばお墓掃除の希望があれば、全員



会議のその場で、都合のつく人に手を挙げてもらい担当してもらう。こうして相談も対応も気軽にできる運営がされている。

スマイル・ちわの活動の柱として「スマイルカフェ」「スマイル居酒屋」といった居場所づくりも行う。知和の集落は山間に挟まれた平地にコンパクトにまとまりお酒を飲んでも歩いて帰れる距離だ。こうした住民間の活発な交流が活動の原動力となっている。

また、大学生(法政大学、新見公立大学)や高校生(津山東高校)と連携し地域課題の発掘やフィールドワークなどを実施。大学生からは空き家を活用した「小さな拠点づくり」の提案や、高校生からは子どもの参加できるイベントの企画もあった。國米さんは「若者に活性化を期待するのではなく、一緒に考えて何でも気楽に言える関係を作っていければ」と考えている。

こうした知和地区の環境と居心地の良さに魅かれ、移住する若者が何人も出てきている。この日、田植えの活動に参加した20代の髙山さんは、地域づくり協力隊として移住し、趣味のMTB(自転車)をきっかけに林業を通じた地域おこしに取り組み、スマイル・ちわの活動に参加する。「森林環境を壊さない小さな機械を使った林業を進めていきたい。田舎で生きる技術や知識を知和の皆さんから何でも学びたい」と語る。

活動を続けるうち、最近では地区の小さな子どもから100歳のお年寄りまで「今日はスマイルの活動がある日だね」と声をかけられるそうだ。今後について國米さんは「活動は無理して続けなくても構わない。何かをやる必要を感じた状況で、若い世代が取り組んでもらえれば」と話す。自然体で続くスマイル・ちわの活動は家族の姿と同じなのかもしれない。

【連絡先】特定非営利活動法人スマイル・ちわ
岡山県津山市加茂町知和 308
メール：smile.chiwa@gmail.com